

旧三隅町の小学校でシイタケの植菌体験を実施

令和6年2月19日（月）、三隅林業研究グループは、長門市立明倫小学校の4年生（20人）と長門市立浅田小学校の4年生（11人）を対象に、シイタケの植菌体験を実施しました。

これは、次代の担い手となる子どもたちに、森林の大切さやそれを支える林業の重要性を体感し、理解を深めてもらうために実施した体験学習です。

当日は、三隅林業研究グループの会員が両校を訪れ、シイタケ栽培について説明した後に、シイタケの植菌を指導しました。

ドリルで原木に穴を開ける際、ドリルが勢いよく回転するため、驚いた児童もいましたが、会員の指導のもとで次々と穴を開けていきました。穴を開けた原木には、シイタケの種駒を木槌で打ち込み、その後、児童が手作りした名札を原木に取り付けました。

シイタケは、児童たちが6年生になった秋に収穫する予定です。会員は、児童たちにシイタケを食べてもらい、菌床栽培との味の違いを実感してほしいとお話していました。



原木の穴開け（明倫小学校）



種駒の打ち込み（浅田小学校）